

厚岸湖および別寒辺牛湿原における水生子の菌類の分類学的研究（要旨）

弘前大学大学院農学研究科 田中 和明

水生菌とは生活環の全て、あるいは一部を淡水中で全うする菌類ををいう。おもに植物体の分解者として知られているが、昆虫の外殻、魚類の鱗、毛髪等の分解にも関与する生物群である。

2003年の6月および9月に、厚岸湖・別寒辺牛湿原周辺の河川7地点において、水に沈んだ植物片を採集し、そこに生育している水生子の菌類（Freshwater Ascomycetes; FWA）の調査を行った。とくに、これまで研究例の少ないプレオスポラ目菌の採集を重点的に行ったところ、5科12属33種のFWAが確認された。

最も高い頻度で採集されたのはロフィオストマ科の菌類で、全体の75.9%を占めた。とくにマッサリナ属菌は44.3%と多く採集されたが、これは、海外のFWA研究の結果とおおむね一致する結果であった。

最も頻繁に採集された種は、マッサリオスフェリア・ティフィコーラで、23%の採集頻度であった。本菌は7河川全ての地点で優占的であったが、これは本菌が、木本・草本の両植物基質上で生育可能であるためと考えられた。対照的に、第3の優占種（採集頻度14%）であるマッサリナ・クリオネラは、木本植物上でしか生育できないため、周りの植生が草本植物主体の河川からは採集されず、まばらな分布となった。

本調査で確認された33種のうち39.4%にあたる13種は、新種または日本新産種（日本で初めて確認された種）であった。このことは、厚岸湖・別寒辺牛湿原周辺の河川が、未確認種発見の探査地として優れた環境であることを示すものと思われる。